

ふくおか & MAFF

2022.11

Vol.41

2022年11月14日発行

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。

Contents

- 株式会社 菜果野アグリ福岡（福岡市）～ 農作業受託で地域を支援！～
- 食料・農業・農村基本法の検証が始まりました
- 下水汚泥資源の肥料利用の拡大に向けた官民検討会始動
- 鳥インフルエンザにご注意を！

ナカヤ 株式会社 菜果野アグリ福岡（福岡市）～ 農作業受託で地域を支援！～

農業分野での人手不足のお悩みを解決するため、収穫や選別作業などを請け負う菜果野アグリ福岡様の取組みをご紹介します！

— どんな仕組みですか？

当社は**農作業受託専門**の会社として、平成29年に設立しました。農業法人等の団体だけでなく、個人農業者からの依頼も多数受注しています。作業スタッフは、主にフリーで働きたい方、定年退職をした方、学生などです。また、うつ病やひきこもり経験者も働いていて、社会復帰の一躍も担っています。

お話を伺いました



統括部長 久保恵利 氏

私自身も現地に赴き、各依頼の内容を見ると、**人手不足が深刻になっていると実感**しています。困った人や生活困窮者を助けること、農家を助けること、2つのバランスを保ちながら、九州では当社と言われるように成長して、日本の農業を支えていきたいです！

— どんな作業を行いますか？

収穫や選果場での**選別作業**、パック作業のほか、摘果、マルチ被覆作業等を請け負っています。現地には**リーダーを配置し、依頼内容を整理してスタッフに指示を出し、各作業を行います。**また、事前に動画で作業方法を確認して、仕事の質の向上や効率化を推進しています。

— 課題や今後の展望は？

生産者のお困りごとに柔軟に対応するのが当社の「売り」で、**直前の依頼や変更にもできる限り対応**していますが、作業スタッフのシフトの調整が非常に大変です。また、閑散期になると作業スタッフが離れていく場合があり、**年間を通して仕事を確保することも課題**です。こうした課題はありますが、少しずつ解決し成長していきたいと考えています。



みかんの収穫作業の様子。昨年の経験を踏まえ、リーダー等は適切な色味や来年の美がなる部分を切らないこと等を指導。



スタッフの皆様

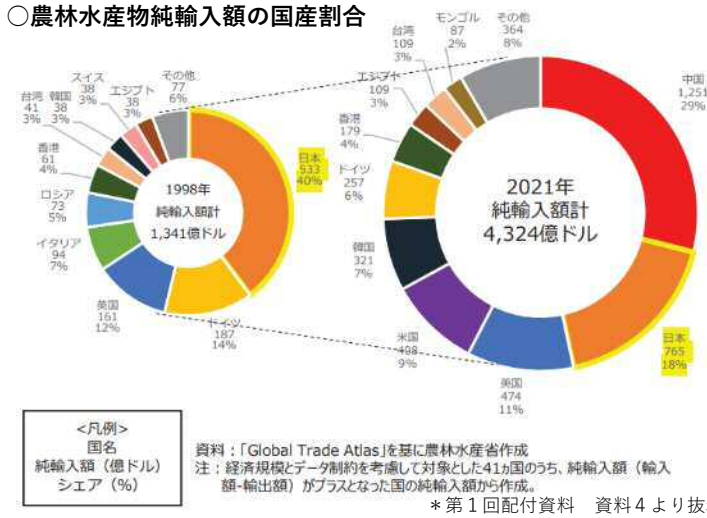
お話を聞かせていただき、ありがとうございました！

食料・農業・農村基本法の検証が始まりました

10月18日に食料・農業・農村政策審議会基本法検証部会（第1回）が開催され、食料・農業・農村基本法の検証・見直し検討について審議が始まりました。1999年に「食料・農業・農村基本法」が制定されましたが、その後の世界の食料生産の不安定化や日本の国際的な位置づけ等の情勢の変化により、輸入のリスクに直面していることを踏まえ、食料の国産化や肥料についてはたい肥などの国内資源の有効活用等を論点に議論をすすめていく案が提示されました。

詳細はこちら ↓
<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kensho/index.html>

1998年当時、日本は世界1位の農林水産物の純輸入国であり、プライスメーカー的な地位であったが、近年はその地位が低下。現在は中国が最大の純輸入国となっている。



下水汚泥資源の肥料利用の拡大に向けた官民検討会始動

農林水産省・国土交通省、関係団体、自治体等で構成する当検討会（第1回）が10月17日に開催されました。肥料利用の現状、事例紹介、課題整理や関係者の役割と具体的な取組について検討されており、年内を目処に論点整理が行われる予定です。

課題

農業

輸入に依存しているリン資源の確保は食料安保の観点から喫緊の課題。

リン安の輸入先
 アメリカ合衆国 51 (10%)
 その他 1 (0%)
 全輸入額 512千トン
 中華人民共和国 460 (90%)
 (令和3年肥料年度)

下水処理

脱炭素社会や循環型社会の実現に貢献するため下水汚泥の燃料や肥料による活用を努力義務化。

現状では、緑農地に利用されている下水汚泥は約1割

下水汚泥資源の肥料化の現状

■ 下水道の普及や下水汚泥の処理技術の進展により肥料活用モデルが誕生

回収リンでの利用

- 神戸市・福岡市 汚泥からリンを回収し肥料として利用

汚泥コンポストでの利用

- 北海道岩見沢市 下水汚泥肥料を100%地元農地還元
- 山形県鶴岡市 JA 鶴岡と協力し汚泥を肥料化、販路を確保・拡大
- 佐賀県佐賀市 下水汚泥肥料の活用で農業者の肥料購入経費を削減
- 岐阜県中津川市 農業集落排水汚泥をコンポスト化して農地に還元

残された課題

回収リンでの利用

- 回収リンの成分のバラツキや固有の特性（即効性がない）を踏まえた肥料の製造
- 下水汚泥からの回収リンは高コスト

汚泥コンポストでの利用

- コストが安く作物生産に有効な肥料であることの周知
- 下水道事業者と肥料の生産・流通業者・農業者とのマッチングの推進
- 汚泥中の重金属成分等のモニタリング
- 下水汚泥肥料以外の堆肥等との利用に関する連携

共通

- 汚泥処分方法の選択肢としての下水道管理者の理解増進
- 肥料の形状や地域の気候・土壌・品目に応じた営農技術の確立
- 農業者・消費者理解の増進による需要拡大

下水汚泥資源を肥料として農業に活用

詳細はこちら → https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/221018_1.html * 第1回配付資料 資料8より抜粋

鳥インフルエンザにご注意を！

今秋以降、国内の家きん飼養施設において高病原性鳥インフルエンザが9事例発生しています（11月13日現在）。また、野鳥での感染も確認されていますので厳重な警戒が必要です。引き続き**発生予防対策**と疑いのある家きんの**早期発見・早期通報**によるまん延防止にご協力をお願いします。

詳細はこちら → <https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html#3>